

# No. 1457

## フラッシュ

- ① 室町時代から伝わる花ショウブ。一日も早い梅雨の訪れを待っています。
- ② 競馬の祭典「第50回日本ダービー」。ミスターシービーはさつき賞に続いてダービーも制覇しました。

# 国際関係と日本の役割

## — 第9回サミット —

5月28日から3日間、アメリカのウィリアムズバーグで開かれた第9回先進国首脳会議・サミットに出席するためアメリカを訪問した中曽根首相は5月27日、ワシントンに立ち寄り、日米首脳会談に臨みました。これは日米二国間問題より、サミットを成功に導くための話し合い。去る1月に首脳会談を持ち信頼関係が確立しているだけに、打ちとけた雰囲気はただよみません。

アメリカでも名門のジョージタウンズ・ホプキンス大学。ここの研究所の卒業式にゲストスピーカーとして選ばれた中曽根首相は「国際関係と日本の役割」と題し、英語で講演しました。サミットの舞台となったウィリアムズバーグ。ワシントンの南西240キロの所にあるこの町は、いわば「アメリカ版・明治村」町並みはすべて開拓時代と同じく復元され、また人々もすべて当時の服装のままで生活しています。

ガバナーズ・パレス前で行われた到着式。独立戦争当時の様子をした鼓笛隊が首相を歓迎しました。ECを加えた参加八首脳による首脳会談では「世界経済のインフレなき持続的成長」をテーマに活発な意見がかわされました。

日本の中曽根首相は、アジアで唯一の参加国として、先の日韓首脳会談、アセアン歴訪を踏まえ、自由貿易の堅持、南北問題などについて発言しました。更に安倍外相、竹下蔵相らを混じえた全体会談で実質討議が行われ、各国は現実的に見て経済回復が進みつつあるとの認識で一致しました。しかし、これを持続的成長につなげるための具体的方策については依然残された問題も多く、失業、財政赤字、保護主義の台頭などについて、今後とも各国間の調整を続けていくことになりました。

3日間にわたる会議を終え、景気回復へ各国がより一層協調を強化していくことを誓ったウィリアムズバーグ宣言を発表するレーガン大統領。中曽根首相は「今回のサミットは平和と繁栄の会議になった」と、その成果を強調しました。